

参 考 手 本

兩岸百花深し

高 木 聖 雨 先 生

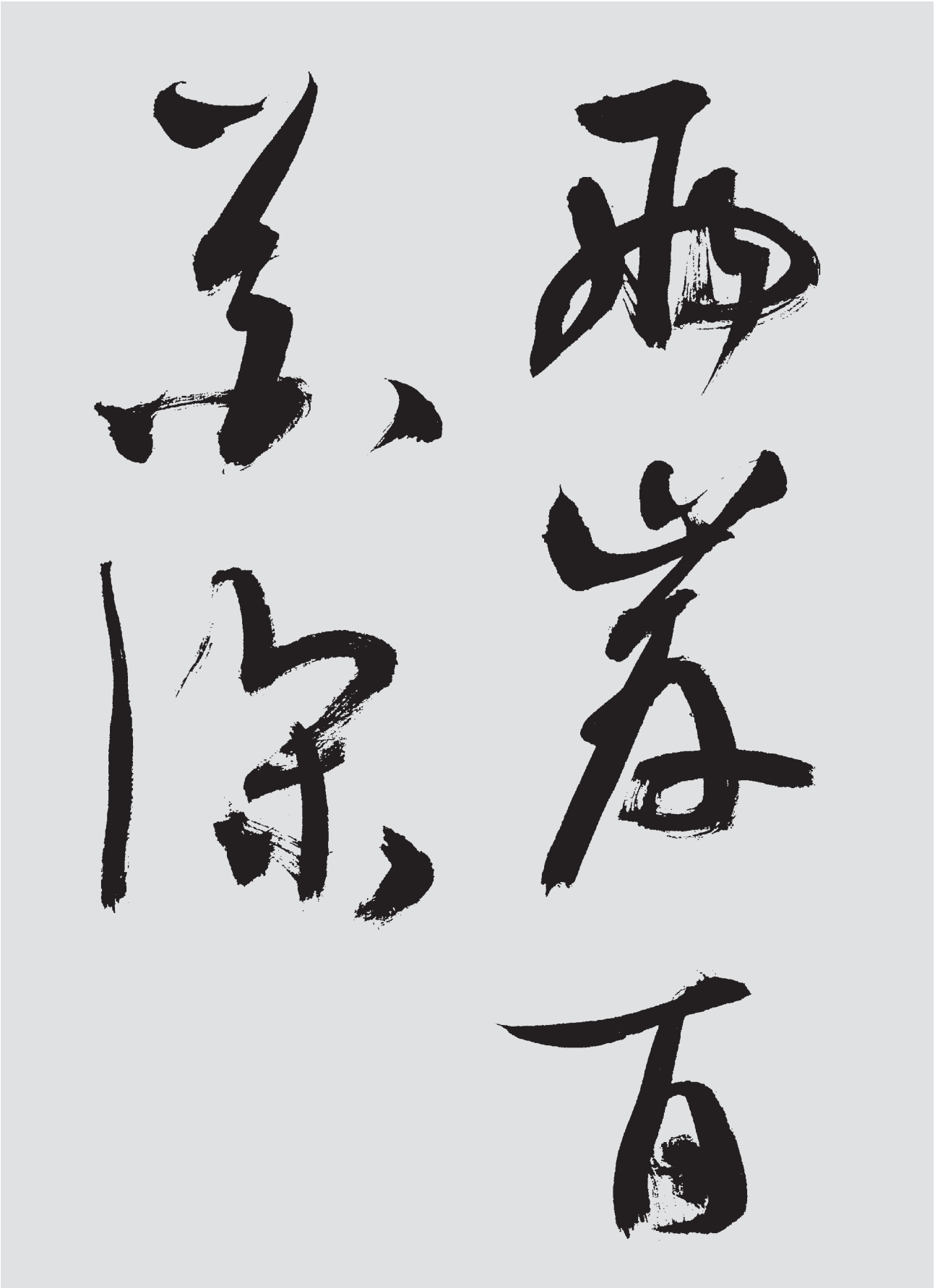


※これは規定課題ではありません。

参 考 手 本

兩岸百花深し

高 木 聖 雨 先 生



※これは規定課題ではありません。

条幅かな

条幅規定

C部 (二段以下)

A部 (準五段以上)

B部 (四段~準三段)

なべてよはさびしきものぞくさまくらたびにありともなにかなげかむ (会津八二) ※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左側下部に添え書きして下さい。



前後赤壁賦 (元・趙孟頫)

鳴掠余舟而西也須臾客去余亦就睡夢二

浮 乘 清 郷 先 生



道因法師碑 (唐・歐陽 通)

接武磨肩暹公傲爾其間仰之彌峻每至法師



条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・級を記入して下さい

(6月10日締切)

半紙規定 (一)

曹全碑 (漢・作者不詳)



令蜀郡西部

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

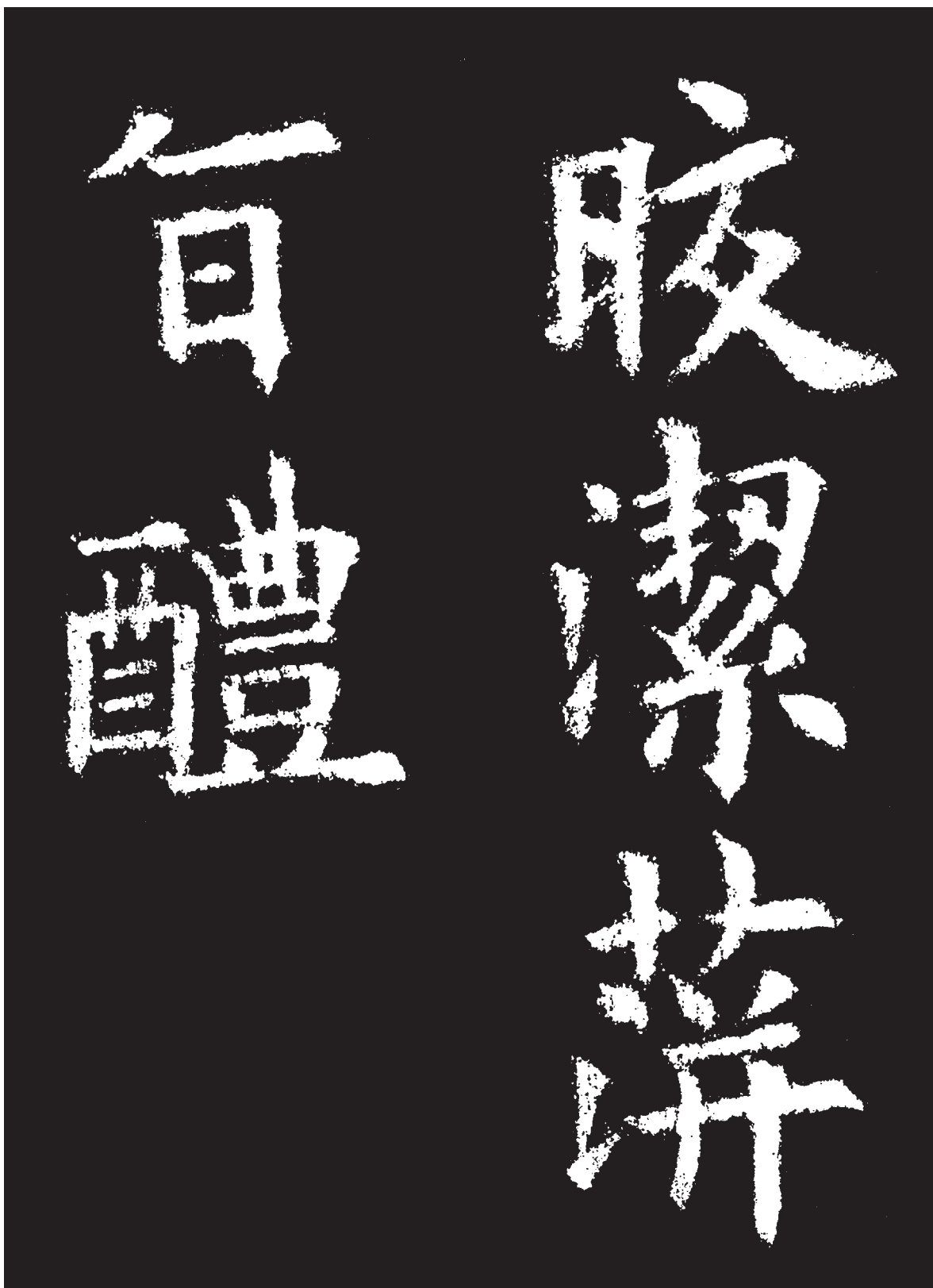
夏陽令・蜀郡西部

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕

(6月10日締切)

半紙規定(二)

九成宮醴泉銘(唐・欧陽詢)



清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書
〔二級以下〕楷書

皎潔萍旨醴

・皎・潔・たり。
・萍・は・旨・く・醴・は

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕

(6月10日締切)

条幅参考手本

雨湿鶯衣重 風暄蝶袖輕 為詩雖至老 未使鬼神驚

草菴書

中村草菴先生

雨湿鶯衣重 風暄蝶袖輕 為詩雖至老 未使鬼神驚
 雨湿して鶯衣重く 風暄かにして蝶袖輕し 詩を為りて老いに至ると雖も 未だ鬼神をして驚かしめず

高橋秀翠先生

小苑鶯歌歇 長門蝶舞多 眼看春又去 翠輦不曾過

秀翠

小苑鶯歌歇 長門蝶舞多 眼看春又去 翠輦不曾過
 小苑鶯歌歇み 長門蝶舞多し 眼に見る春又去るを 翠輦曾って過ぎらず

本 手 考 参 幅 条

江碧鳥逾白 山青花欲然 今春看又過 何日是歸年
 江碧にして鳥逾白く 山青くして花然えんと欲す 今春看又た過ぐ 何の日は是れ歸る年ぞ

江 碧 鳥 逾 白 山 青 花 欲 然 今 春 看 又 過 何 日 是 歸 年
 春 看 又 過 何 日 是 歸 年

原 碩 州 先 生

青梅も十三七つ月よ哉 (小林一茶)

青 梅 も 十 三 七 つ 月 よ 哉

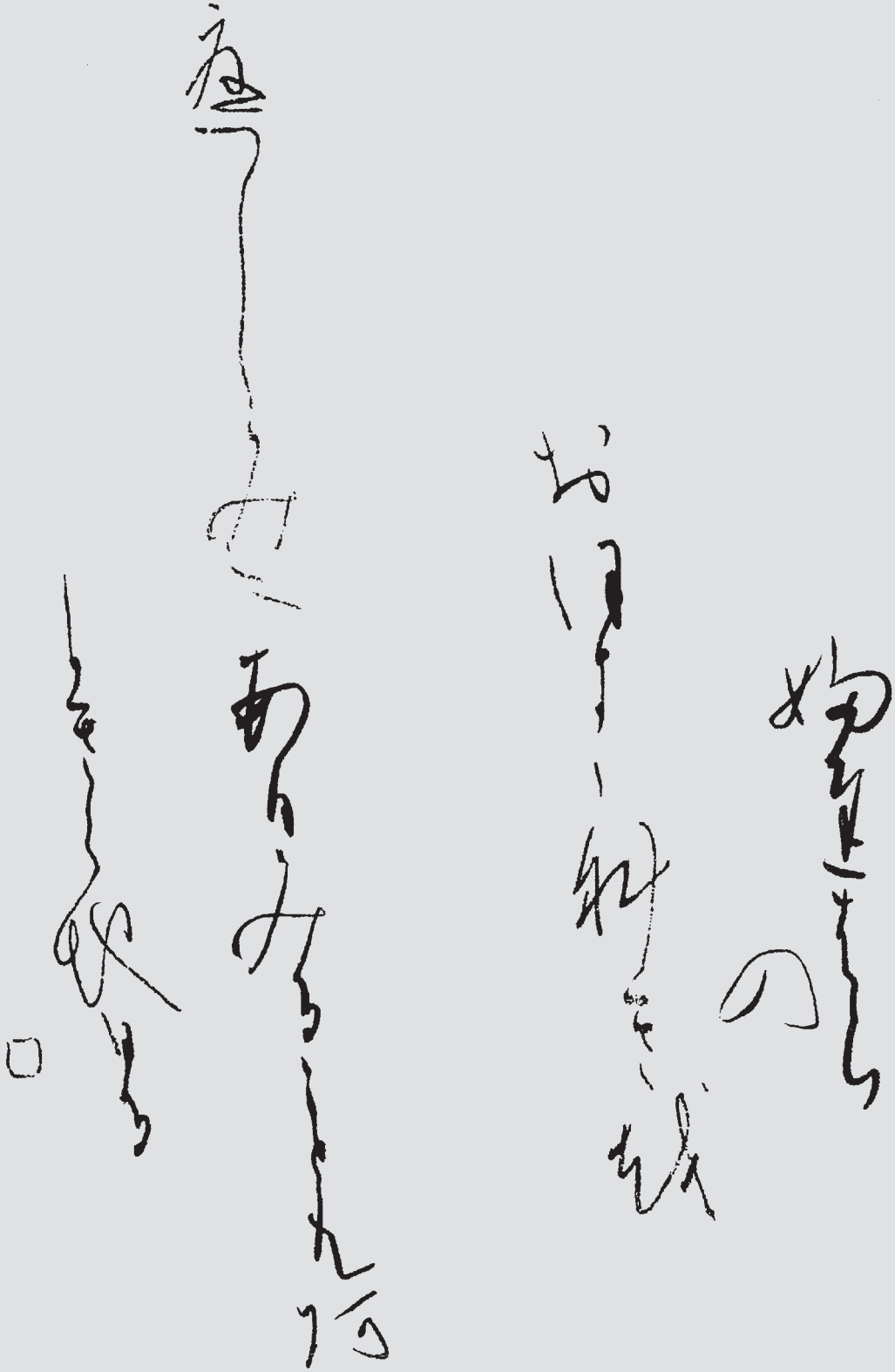
一 茶 の 句 雨 嶂 乎

渡 邊 南 嶂 先 生

半紙かな（初段以上）

編者
 題者
 保支、斜
 趣愛
 二
 日
 九阿可
 地日
 ふちはらのおほきまさきをうつしみにあひみるごとくあかきくちびる（会津八一）

支 部 名
 段
 姓
 号（鉛筆可）



※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。
 ※ちらし文字変換は自由

浮 乘 清 郷 先 生

（6月10日締切）

実用文（準三段以上）

白河の関にかかりて旅心定まりぬ。いかで
都へとたより求めも理なり。中にもは
の突は三関の一にして、風騷の人心を
とぶむ。秋風を耳に残し、紅葉をおも
かけらして、青葉の梢猶あはれ也。

支部

あ

姓

号

〈書風任意〉……中にも此の關は…風騷の人…秋風を耳に残し、紅葉を…。

奥の細道より

主幹 菅野翠濤

（6月10日締切）

実用文（二段以下）

〈書風任意〉

恒例にがりまね同窓会のご案内

昨日受取りました残念がら所用

の為出席する事が出来ません

皆様にもうしくお伝え下さい

支部名 段級 姓 号

大越三宗先生

（6月10日締切）

細 字

支 部

段

姓

号

映	映	映	映
畫	畫	畫	畫
娛	娛	娛	娛
樂	樂	樂	樂
俳	俳	俳	俳
優	優	優	優
好	好	好	好
演	演	演	演
劇	劇	劇	劇
間	間	間	間

※一級〜八級は草書まで。初段以上は隸書まで。

名前は必ず楷書 17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

硬筆（初段以上）

端午の節句の発祥は古代中国。端午とは、月の初めの午の日のこと。もともとは邪気を払うための儀式だったが今では男の子の成長を願い、五月人形や鯉のぼりを飾り、ちまきや柏餅で祝います。

支部名

段

姓号

本院定型用紙一枚に書く

青柳江雲先生

（6月10日締切）

硬筆（4級以下）

平日は勤めの農家が増え、大型連休の
 田んぼは、田植え機ラツシュだ。
 支部名 級 姓 号

本院定型用紙・たて半分に書く

齊藤 翡翠 流 先生

硬筆（1級～3級）

平日は勤めの農家が増え、大型連休の
 田んぼは、田植え機ラツシュだ。
 支部名 級 姓 号

齊藤 翡翠 流 先生

（6月10日締切）

中2用

校
名
名
前

旅行 楽しい

田邊玉翠先生

中3用

校
名
名
前

の 街路樹 緑

田邊玉翠先生

小6用

校名

の太

名

光陽

前

朝平霞山先生

中1用

校名

の

名

力

前

大自然

田邊玉翠先生

学生書道コンクール課題 (6月10日締切)

小4用

校名

け夕

名

空や

前

朝平霞山先生

小5用

校名

の百

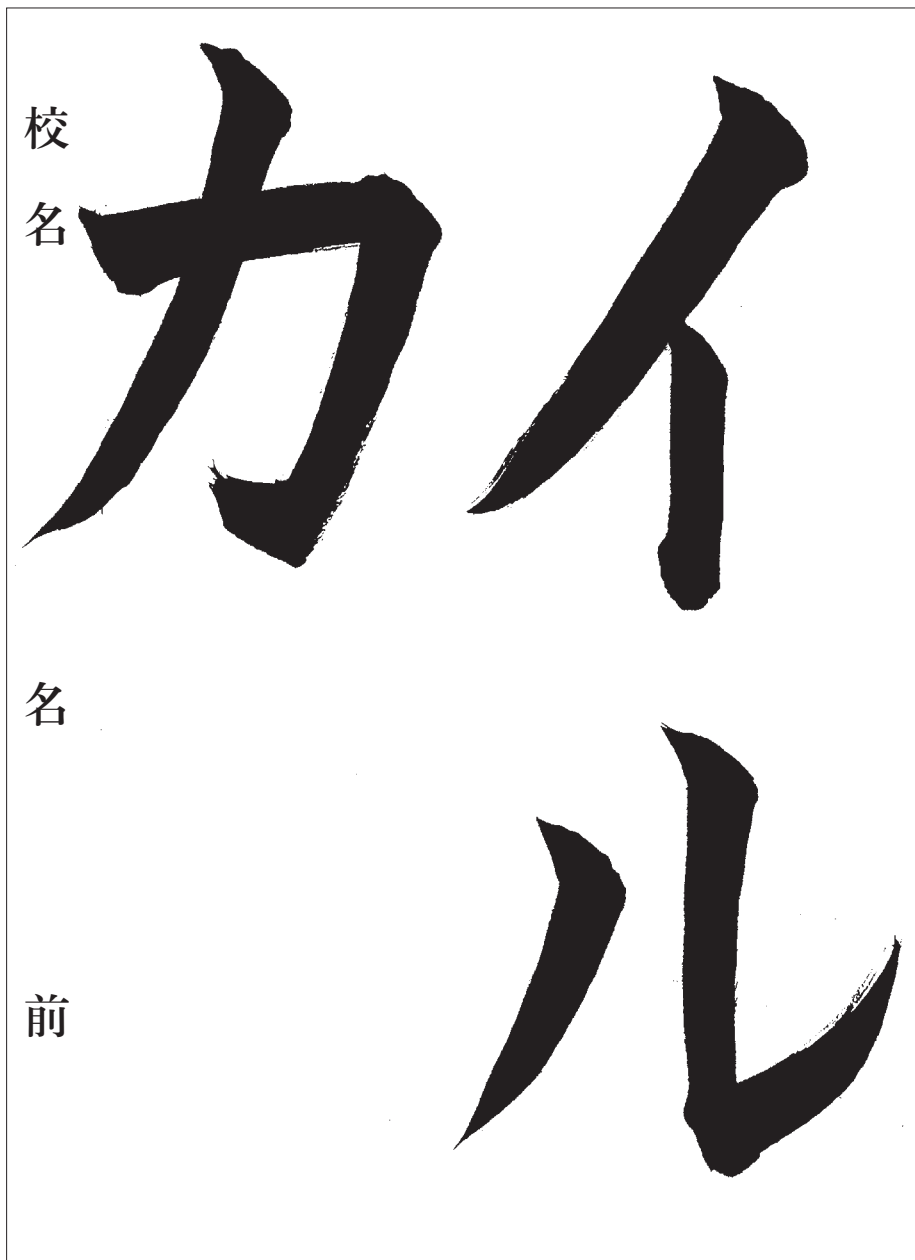
名

花合

前

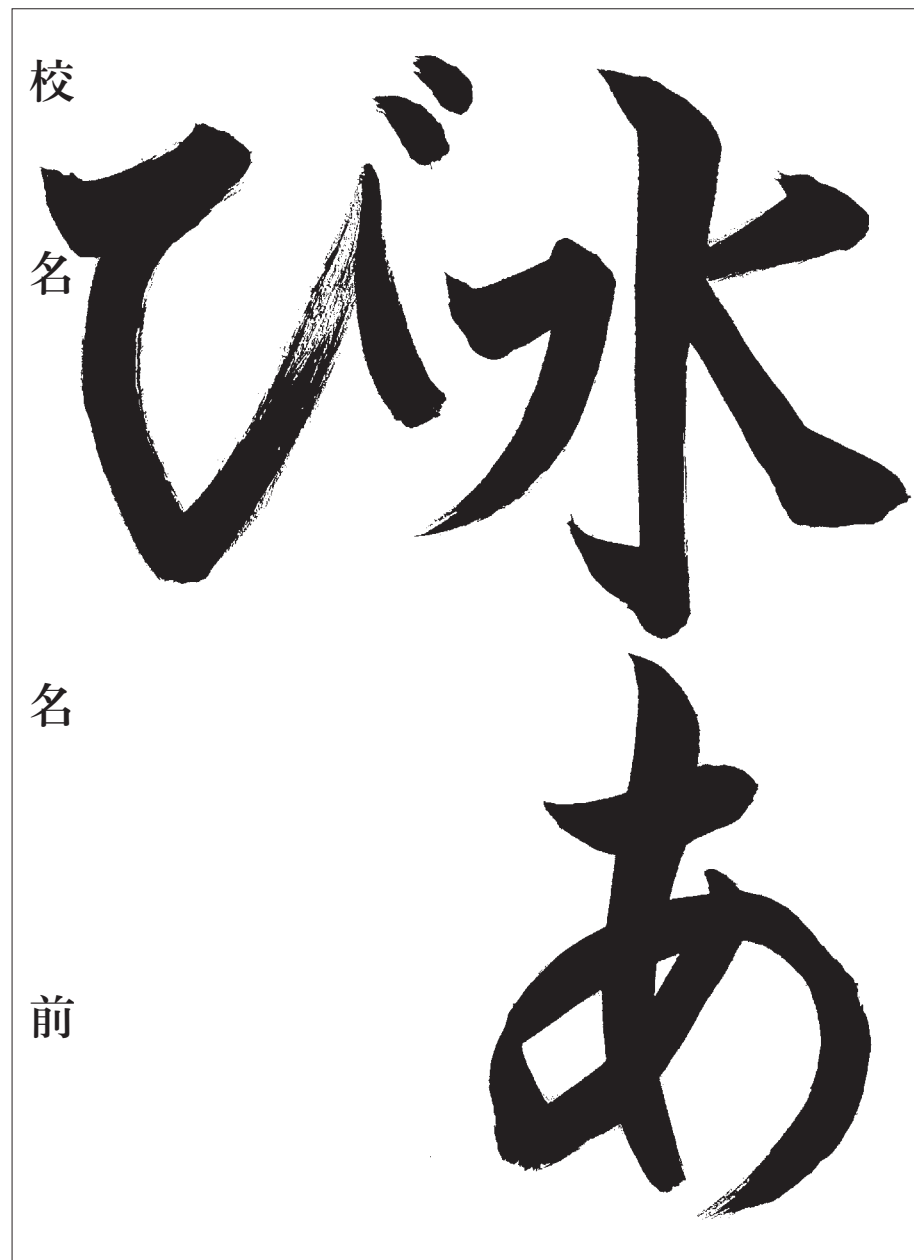
朝平霞山先生

小2用 (4月号予告を変更致しました)



主幹 菅野 翠 濤

小3用



主幹 菅野 翠 濤

学生書道コンクール課題 (6月10日締切)

小1・幼年用

校名

名

前

ほし

中 3

が、科学力で生命の不思議
が、かなり解明された。

中 2

新緑がまぶしい、心の
洗われる季節となった。

中 1

ど、今日は木陰が恋しいほ
ど、汗ばむ一日でした。

中1～中3

青柳江雲先生

学生書道コンクール課題（6月10日締切）

小1・幼年

へんじをしよう。
おおきくはっきりと

小1～小3

小 2

花だんのバラに
とう虫がとまった。

若月久美子先生

小 3

空にこいのぼりが元
気よくおよんでいる。

小 4

晴れた空に白い雲が
うかんでいます。

小4～小6

小 5

わか葉のかがやきが美
しい季節になった。

齊藤翡流先生

小 6

野原一面、黄色いきれ
いな花がさいている。

学生書道コンクール課題（6月10日締切）

参 考 手 本

露荷
清香を散ず

露 荷 散
清 香

成 瀬 映 山 先 生